令和5年度　健康福祉学科

自己点検･評価報告書

令和６年３月

富山短期大学　健康福祉学科

目次

番号	点検項目名	認証評価（第三評価期間）			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入)									
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	地域連携センター	入試・広報センター	事務部	食栄	幼教	経情	健福	専攻科
1	建学の精神	Ⅰ　建学の精神と教育の効果	A　建学の精神	1　建学の精神を確立している。	×										
2	地域・社会貢献			2　高等教育機関として地域・社会に貢献している。	○									1	
3	教育目標		B　教育の効果	1　教育目的・目標を確立している。	○									2	
4	学習成果			2　学習成果（Student Learning Outcomes）を定めている。	○									3	
5	三つの方針			3　卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。	○									4	
6	内部質保証		C　内部質保証	1　自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	○									5	
7	教育の質			2　教育の質を保証している。	○									6	
8	学位授与方針	Ⅱ　教育課程と学生支援	A　教育課程	1　短期大学士の卒業認定・学位授与の方針を明確に示している。	○									7	
9	教育課程編成・実施の方針			2　教育課程編成・実施の方針を明確に示している。	○									8	
10	幅広く深い教養			3　教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。	○									8	
11	職業教育			4　教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。	○									9	
12	入学者受入れ方針			5　入学者受入れの方針を明確に示している。	○									10	
13	明確な学習成果			6　短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。	○									11	
14	学習成果を測定する仕組み			7　学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	○									11	
15	学習成果を可視化する指標			8　資格・免許取得率、専門職就職率など学習成果を可視化する指標を持っている。	○									12	
16	卒業後評価への取組み			9　学生の卒業後評価への取組みを行っている。	○									13	
17	教育資源の有効活用		B　学生支援	1　学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	○									14	
18	学習支援			2　学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。	○									15	
19	生活支援			3　学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。	○									16	
20	進路支援			4　進路支援を行っている。	○									16	
21	健康支援			5　学生生活に課題を抱える学生への相談支援を行っている	○									17	
22	授業外活動支援			6　学生会、サークル、ボランティア活動への支援を行っている。	×										
23	通学利便性支援			7　自転車・車通学、公共交通アクセスなど通学の利便性を図っている。	×										
24	同窓生支援			8　卒業生、同窓会への支援を行っている。	×										
25	教員組織		A　人的資源	1　学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	×										
26	教育研究活動			2　専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	○									18	
27	事務組織			3　学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	×										
28	人事・労務管理			4　労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。	×										

番号	点検項目名	認証評価（第三評価期間）			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入)									
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	地域連携センター	入試・広報センター	事務部	食栄	幼教	経情	健福	専攻科
29	物的資源の整備、活用	Ⅲ　教育資源と財的資源	B　物的資源	1　学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。	×										
30	図書館活動			図書館活動	×										
31	施設設備の維持管理			2　施設設備の維持管理を適切に行っている。	×										
32	技術的資源		C　技術的資源をはじめとするその他の教育資源	1　短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	×										
33	財的資源		D　財的資源	1　財的資源を適切に管理している。	×										
34	財政上の安定確保			2　日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。	×										
35	理事会等の管理体制	Ⅳ　リーダーシップとガバナンス	A　理事長のリーダーシップ	1　理事会等の学校法人の管理体制が確立している。	×										
36	教授会等の教学体制		B　学長のリーダーシップ	1　学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学体制が確立している。	×										
37	監事の業務		C　ガバナンス	1　監事は寄付行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。	×										
38	評議員会の開催			2　評議員会は寄付行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営している。	×										
39	情報の公表・公開			3　短期大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。	×										

令和５年度　健康福祉学科　自己点検報告書

１　建学の精神（他部局で記載のため省略）

２　地域・社会への貢献

（１）現状

①「地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業」(富山県委託)

・呉羽地域の自治振興会や社会福祉協議会、長寿会、介護保険事業所、地域包括支援センター等と連携し、介護の仕事の理解を促進するための交流会や勉強会を開催するほか、新たに「つなぐ・つながるプロジェクト」を実施し、地域住民と介護保険事業者等とのつながりを促進し、事例集にまとめた。

・介護人材確保の一助として、介護助手として介護現場での就労を支援する入門的研修や業務体験支援を実施した。また、新たに、地域での介護助手の理解促進を図るため「介護助手交流会」を開催するとともに、冊子を作成した。

・3 年間のまとめとして 2 日間にわたり「取組内容検討ミーティング」を開催したほか、「地域での勉強会ハンドブック」「人と事業所がつながる」、「地域を基盤とした介護に関する入門的研修からマッチングまでの実施マニュアル」を作成した。

②シルバー人材センターセミナー

富山県シルバー人材センター連合会の依頼を受け、「シルバー派遣キャリアアップ教育訓練」の講師を務め、学科教員 2 名が計 7 会場を担当した。

③「中学・高校生介護人材発掘事業」(富山県社会福祉協議会から受託)

中学校や高校への出前講座を、中学校 4 校に計 4 回、高校 8 校の計 8 回実施した。

④リカレント教育（県補助事業）

「富山県高等教育機関リカレント教育推進事業」を活用し、「介護現場の介護ロボットと ICT」をテーマに、3 回シリーズでオンラインにて実施した。

⑤「高校生のための健康と福祉のオンラインワンポイントセミナー＆進学相談会」

健康と福祉の入門講座および進学相談会を、オンラインで実施した。

⑥富山県介護福祉士養成校協会の会長校および事務局校

県委託事業「高校生のための福祉のガイド本」（第 8 版）を本学が中心となり作成し、県内の高校 1 年生を対象に配布した。

⑦「介護の日」イベントへの参加

・ボランティアグループ「Tomitan スマイル 8＋」が考案したリズム体操を披露。

・1・2 年生有志でチラシを配布し、認知症や要介護状態の方々に対する理解を深める啓発活動を行った。

・イベントのサブタイトルが 2 年生の応募作品に決まり、表彰を授与した。

⑧ゼミ活動を通じた地域貢献

・ゼミ活動を通し、タクティールケアや高齢者のスマートフォン教室を開催した。

⑨富山県「認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン 2023」に参加し、座談会や県内 2 か所での街頭キャラバンやショッピングセンターでのハンドケアのブース開設等を通し、啓発に努めた。

⑩その他

個々の教員の専門性を活かし､多様な依頼を公務に支障がない範囲で引き受けている。

・富山県社会福祉審議会委員や富山県福祉人材確保対策会議委員をはじめとした審議会や各種会議委員

・介護支援専門員や介護福祉士実習指導者、民生委員・児童委員、保護司、社会福祉協議会等の研修講師

・富山県看護協会や富山県介護支援専門員協会、富山市保護司会の役員としての活動

（２）課題

①各種講座やセミナーの開催にあたり、効果的な広報手段の工夫が求められる。

②外部からの依頼に応えていくため、効率的な学科運営に向けた改善が必要である。

③高校生、中学生向けの出前講座、地域住民への入門講座により、介護に対する啓発を推進していく。

（３）特記事項

①富山県介護福祉士養成校協会の平成 15 年度の創立以来、会長校ならびに事務局校を担っている。

②富山県障害者スポーツ大会（陸上競技会）の補助スタッフとして、学科開設以来、学生が毎年参加している。

③日本介護福祉士養成施設協会の総務・政策委員及び東海北陸ブロック協議会副会長を学科長が、東海北陸ブロック教員研修会の実行委員を副学科長が担った。

④日本介護福祉教育学会の実行委員を副学科長と教員 1 人が担った。

⑤富山県福祉人材確保対策会議の会長を名誉教授が務めるとともに、学科長がワーキング座長を担っている。

⑥富山県社会福祉審議会の委員に、名誉教授と学科長が加わっている。

（４）改善計画

①地元の団体・組織と連携しながら、地域貢献の推進に尽力していく。

②講師や委員等の依頼は、公務を調整しながら積極的に受けていく。

③高校生を対象とした講座を積極的に広報していく。

3　教育目的・目標の確立

（１）現状

①学生及び教員に配布する『学生のしおり』に明記するとともに、本学 Web ページの「学校概要～教育研究活動の概要」でも学内外に表明している。自己点検・評価委員

会、教務委員会、学科会議、卒業生との教育課程懇談会と非常勤講師を交えた教育課程懇談会を実施し、点検・見直しを図っている。

②富山県社会福祉審議会をはじめ富山県福祉人材確保対策会議や富山県介護福祉士養成校協会等の討議結果など、社会が求める介護・福祉人材像を反映するよう取組んでいる。

③福祉・介護職場のニーズに対応するため、情報化・デジタル化、介護ロボット・ICT、多職種連携など「進化・深化する介護」や健康や幸せ・well-being を支える人材の育成に向けて検討を行った。

（２）課題

①各種感染症や学生の疾病などに対応しつつ、教育目的・目標を達成するための創意・工夫が必要である。

②学科の社会的ミッション、教育目的・目標を達成していくために、小中高校生とその保護者を含む地域住民、さらには社会全体に「介護の仕事」の魅力・深さ・豊かさを正しく伝えていく必要がある。

（３）特記事項

①介護実習については、新型コロナウイルス感染症の影響や、多様な学生が各実習の目的・目標を達成するために、実習施設と話し合いながら進めた。また、学生、実習指導者、教員が同じ視点で実習できるよう「実習指導者会議」や「介護実習の評価に関する検討会」などでの意見を踏まえ、実習目標や評価の見直しを行った。

②社会ニーズに対応した介護福祉士を養成するため､「生活支援技術｣の内容を見直した。

・情報化・デジタル化に対応するため「介護ロボット・ICT」の教育

・障害者の育児支援や障害児の支援に対応するため富山市西保健福祉センターと連携しての沐浴や育児について学ぶ「赤ちゃんの育児」

③将来、介護福祉士になる学生自身が介護の仕事の魅力を伝える力を養うため、新たに「介護の魅力発信」のゼミ活動を行った。

（４）改善計画

①教育目的や目標と「介護の仕事」の魅力について、学内外のオープンキャンパスなどをとおして高校生や社会人に広く伝えていく。

②介護現場の介護ロボット・ICT の導入に対応した授業に改善していく。

４　学習成果

（１）現状

①建学の精神に基づき定められた本学の学習成果により、健康福祉学科の学習成果を定めている。学習成果を「学生生活のしおり」や Web シラバスに「学習成果別判断基準（ルーブリック）」として記載し、学内外に表明している。

②Web シラバスを利用して毎回の授業を振りかえるほか、期末の授業アンケートを通して学生の学習成果をレーダーチャートで可視化し点検するとともに、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。

③生活支援技術については生活支援技術到達表を作成し、2 年次の 2 月に到達度を評価している。また、医療的ケアについては学生がチェックリストに基づき 5 回以上授業時間で行うとともに、実技試験でミスがない状態を成果としている。

④学習成果としての資格取得は、これまでの国家資格である介護福祉士、医療的ケア基本研修修了、普通救命Ⅱ講習修了、介護職員初任者研修修了、社会福祉主事任用資格、メディカルクラーク、ケアクラーク、福祉住環境コーディネーター、日商 PC 検定、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会認定「介護サービス担当者のためのストーマケア講習会」修了、アクティビティ・ワーカー資格受験に加え、新たにウォーキングトレーナー、公認初級パラスポーツ指導員、介護予防運動トレーナー資格も取得可能なカリキュラムとした。

（２）課題

①学生が感染症等で登校できない場合に、学習成果をあげる創意と工夫が必要である。

②科目ごとのルーブリックを学生や教員がよく理解できるように整理する。

（３）特記事項

①実習指導者会議や実習事前訪問をオンラインで行い、実習指導者と効率的な実習目的・目標の共有が行えた。

②実習の学修成果を高めるため、「介護実習の評価に関する検討会」を 4 回にわたり開催。

（４）改善計画

①感染症や自然災害（大雪、地震、洪水等）など、危機管理時は、危機管理対策本部の指示に従うとともに、学生に対応を周知しておく。

②科目と科目のつながりや、ルーブリックについての理解を深めるオリエンテーションを学生に行う。

5　三つの方針

（１）現状

①本学が定めた三つの方針及び、学則第 2 条の 2（4）に定めた学科の教育研究上の目的に基づいてディプロマ・ポリシーを、教育課程編成方針とともにカリキュラム・ポリシーを「学生生活のしおり」に記載している。また、アドミッション・ポリシーを学科の教育課程と一体的に策定している。

②三つの方針を踏まえた教育活動を行っており、前期末及び後期末の「授業評価アンケート」の記入を学生に求めるほか、卒業直前の学生との「教育課程懇談会」、非常勤講師等との「教育課程懇談会」を開催して、今後の教育指導に関わる意見をいただいた。

（２）課題

①学生の多様な学びや多彩な資格取得が可能となるよう、カリキュラムの編成や時間割に工夫が必要である。

②三つの方針において、学科の特性や魅力を受験生並びに保護者、高校教員に興味･関心を持ってもらえるよう、言葉・表現の工夫が求められる。

（３）特記事項

福祉・介護現場の介護ロボット・ICT の導入や災害支援、多職種連携に対応するよう介護分野の科目内容を検討し、学則及び介護福祉士養成課程履修細則の見直しを行った。

（４）改善計画

①受験生並びに保護者、高校の教員に三つの方針の情報発信に努める。

②取得できる資格と教育内容や科目を点検・見直しつつ、効率的な教育課程の編成に引き続き取り組む。

６　内部質保証

（１）現状

①定められた時期に毎年､学科内で教員全員が分担しながら自己点検に取り組んでいる。評価項目は短大基準協会の第三者評価の基準をもとに実施し、標準的な自己点検・評価となるよう努めている。

②日常的な自己点検・評価活動の一環として、毎週行う学科会議では、日頃の教育活動や学生指導等で出てきた課題や予想される事項についての意見交換、すでに生じた事案への対応などを学科の総意と共通理解で行う体制を整えている。また、支援結果についても学科会議で共有している。

③高校訪問で出された意見や富山県介護福祉士養成校協会による「介護福祉士養成教育に関する連絡協議会」で寄せられた意見なども､自己点検や評価活動に反映している。

④大学で設置する「外部評価委員会」での指摘事項も自己評価の材料としている。

（２）課題

・教員における自己点検の視点の平準化をはかる。

（３）特記事項

・シラバス作成後の学科内での点検作業も導入し、教員相互に改善に取り組む体制と意識化を図った。

（４）改善計画

課題等を確実に改善につなげ、その結果の検証を行うルール作りに取り組む。

7　教育の質保証

（１）現状

①概要

・教育向上と充実の PDCA サイクルは、前期・後期の始まりの教務委員によるシラバス点検や学科教員全員が学内の FD 研修会に参加するとともに、毎回の授業、成績の分布や授業アンケートの結果を分析して「授業改善レポート」を作成し、改善につなげている。

・個別支援に生かすため、入学時の学力を把握する入学時テストを実施している。

・年度末に教育課程懇談会を 2 年生、教職員（非常勤講師を含む）それぞれと実施、改善につなげている。

・介護福祉士養成課程の生活支援技術については生活支援技術到達表を作成し、2 年次の 2 月に到達度を学内評価している。医療的ケアについても、喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)、経鼻経管栄養、胃ろう・腸ろうの 5 種目について、チェックリストに基づき 5 回以上実施した後、技術試験でミスなく実施できた時に合格としている。

・実習では、シャドーイングを取り入れた実習を行い、基礎実習Ｉ－1 終了後の調べで、介護福祉士資格取得を目指す学生の割合が 100%となった。

・情報化・デジタル化、進化・深化する介護に対応するよう、生活支援技術に「介護ロボット・ICT」を１単位位置づけ、学内での講義、演習に加え、令和５年４月にオープンした「とやま介護テクノロジー普及・推進センター」や先進施設として内閣総理大臣賞を受賞した「ささづ苑かすが」での学外授業を行った。

②授業アンケート結果

・学修成果に対する自己評価の平均値は、昨年度に比べて１年生、２年生ともに前期は減少した。後期は１年生が増加、２年生は減少した。

・総合評価での授業満足度は、前期は１年生 3.6 から 3.5 に 0.1 ポイント減少、2 年生 3.7 から 3.2 に 0.5 ポイント減少した。後期は 1 年生 3.3 から 3.6 に 0.3 ポイント増加、2 年生 3.6 から 3.4 と 0.2 ポイント減少した。

③シラバスのルーブリックからみた学修成果の評価

・シラバスのルーブリックからみた学修成果では、自己評価や満足度において評価が高く、学修成果も高い科目もあればそうでない科目もあった。

④学修行動・生活調査

・回答率 86.7%で、在学して満足している（「とても満足」＋「満足」）と答えた人が８割、学科教員からの学習支援に満足している（「とても満足」＋「満足」）と答えた人が９割を超えていた。

（２）課題

①学生個々の特性に応じた授業の展開と個別指導

②学生の体調に伴う、授業の急なハイブリッド対応

（３）特記事項

・疾病等で登校できない学生には、必要に応じ補講やオンライン授業で学びを保証した。

（４）改善計画

①日常の場面で気づいたことは情報共有し、教育の質の向上に努める。

②学生の授業満足度や学修成果があがるように、個々の学生の特性に応じたわかりやすい授業や個別指導に計画的に取組む。

８　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）現状

①卒業認定ならびに学位授与の方針は、学則第２条の２にある学科の目的達成のために編成した教育課程を履修し、規定の単位を修得することとなっている。

②学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学修成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も「学生のしおり」で明確に示している。

③学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学設置基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考える。

④卒業生の単位取得状況や科目の履修状況などを参考にしながら、能力基準別到達目標（学修成果）の点検を年度末に行っている。

⑤合理的な配慮が求められる学生であっても介護福祉学を学ぼうという志のある学生については、適切な支援を行うよう努めている。

（２）課題

特になし

（３）特記事項

学生の疾病や障害の状況によって、合理的配慮が必要な場合は、医師等の意見を踏まえ対応した。

（４）改善計画

①学生が自分の取得単位や GPA を確認しながら学ぶことを指導すると共に、担任においても学生指導に有効活用していく。

②レポートによる期末試験での採点基準を教員間で平準化するための検討を進める。

９　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

（１）現状

①教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応させ、同時に見直しを行っている。

②短期大学設置基準に則り、学修成果に対応した授業科目の配置となるよう毎年点検を行っている。
③学科の教育課程は「学生生活のしおり」に記載し、資格取得との関連も含めて学生にわかりやすく明示している。
④教育課程編成方針、教育課程実施方針（教育内容・方法）と学修成果の評価方法、学修成果の評価は年度末に見直しを行っている。
⑤介護福祉士養成課程においては必修科目に含めるべき教育内容が国により定められており、該当科目はシラバスでその点が確認できるようにしてある。
⑥介護職員初任者研修においても、定められた教育内容を漏らさず実施できるよう取組んでいる。
⑦教育課程懇談会は、卒業を間近に控えた 2 年生に感想や意見を述べてもらう場と、学内の兼担教員や学外の非常勤講師から話を伺う場の 2 つを開催している。

（２）課題
教育課程懇談会の参加率を高める。

（３）特記事項
教育課程懇談会を今年度は学生とは対面で、教員とはオンラインで実施し、学生、教員から忌憚のない意見を伺うことができた。

（４）改善計画
①学生から時間割変更の早期掲示の希望があり、改善する。
②教育課程懇談会はじめ行事日程は早めに調整する。

10　幅広く深い教養

（１）現状
①教育課程体系図
・Web シラバスにおいて教育課程体系図（カリキュラムツリー）を示している。
・学科の教養科目には区分「健康」「人間と社会」「外国語」がある。
②区分「健康」では、科目を整理し、ウォーキングトレーナーと公認初級パラスポーツ指導員の資格取得に対応した。
③区分「人間と社会」では、本学科の特徴として「ボランティア演習」、実際の生活でも活用される「コミュニケーション論」はじめ、福祉の基盤でもある「人間の尊厳と自立」など、幅広く深い教養と豊かな人間性を修得できるよう科目を配置している。
④新たに「人間と情報」を開設し、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムへの対応を行った。
⑤「教養演習」では、自発的・主体的に学習し、「読む」「読み取る」「考える」「書く」「意見を出す」「調べる」という能力を高めることを目的としている。ゼミクラス方

式による少人数の参加型学習で進め、各グループには学科の専任教員 1 名がつく。前半は新聞記事を題材にまとめる力や発表力を高め、後半は本学がある呉羽地域でのフィールドワークを行い、調査した内容をグループごとに発表した。

⑥区分「外国語」では、異文化及び言語に触れ、国際交流に役立つコミュニケーション能力を養うため、「英語」と全学共通の短期留学プログラムを設けている。学生の幅広いレベルに応じた授業展開となっている。

（２）課題

学生全員がノート PC を持つ環境が整備されたことにより、教養科目のみならず専門科目でのアクティブラーニングにおける ICT の活用について、基礎的教養を確立することが課題である。

（３）特記事項

健康福祉を学ぶ学科としての特性を明確に伝え、科目編成に取組んでいる。

（４）改善計画

アクティブラーニングにおける ICT 利用のノウハウの蓄積・共有について検討する。

11　職業教育の実施

（１）現状

①キャリア教育については、今年度から「キャリアデザイン演習」科目を 1 年次前期に開講している。特別講座や実践講座を組み入れながら実施した。また、就職支援センターにより、1 年次の 12 月に一般就職向けの就職ガイダンスが開かれている。

②学科の就職支援担当教員が中心になり、ゼミ担任をはじめ学科教員が進路に関して個人面談を適宜実施し、就職や進学に向けた履歴書指導や面接指導をおこなっている。

③採用先へのお礼訪問では、お礼とともに本人とも面談するほか、採用先から本学への要望についても聞き取り、報告書にまとめ、その後の学生指導に反映している。

④今年度から医療・介護・福祉業界に関する説明を受けて業種理解を深めることを目的に、「業界・業種理解」セミナーを実施した。卒業後の働くイメージを具体的に描き、必要な知識・技能・態度を身につけ、早期の就活につなげるよう努めている。

⑤介護実習では、実習を通じて介護観を構築できるよう働きかけている。基礎実習からシャドーイングを取り入れた実習を継続し、学生は「説明・見学」「模倣」「実施」のプロセスを通し、介護の仕事の魅力に触れ、職業選択に役立てている。

⑥複数の学生が同じ事業所での就職を希望する場合は、同じ教員が指導をおこなっていく体制をとっている。

（２）課題

①主体的な就職活動を行えるよう、学生の意識を高める働きかけを推進する。

②学生は実習先から就職先を選択する傾向もあるが、社会福祉協議会や公的病院などからの採用のニーズにも対応するため、視野を広げた就職活動を促す。

（３）特記事項

①2 年生の動向を毎週就職支援センターと情報共有し、適切な支援につなげた。

②2 年生が 1 年生に進路についてアドバイスを行う行事では、時間を区切って複数のブースを回り、多くの 2 年生からいろいろな体験を聴く方式にした。

③特別講義では、社会福祉法人の理事長と病院の事務長の二人から講演をいただいた。

（４）改善計画

①「キャリアデザイン演習」で実施していた外部講師による面接指導や特別講義などの実施時期について、適切な時期での実施を検討する。

②介護実習の受入先を開拓し、今以上に多様な進路選択を可能にしていく。

12　アドミッション・ポリシー

（１）現状

学科の教育目標・教育方針に基づき、入学者受け入れ方針を定めている。

①【求める人物像】では、３つの人物像を明示することで、学科の学びの特性と求める人物像が、高校生に伝わるようにしている。

②【高等学校で習得しておいてほしい内容】では、習得してきてもらいたい内容をできるだけ具体的に提示している。

③【求める資質・能力】では、全学的な方針に合わせたものを基本にしている。

④【入学者選抜における評価方法】では、「富山短期大学入学者選抜実施要綱」に基づき各入試の選考方法に応じて多面的・総合的に評価することを明記し、広く学生募集を行う旨を明らかにしている。

⑤総合型選抜 A 日程では、新たに設けられた「学びチャレンジ型」という入試形態を用い、学校推薦入試より先に合格がわかることで進路を早く決定させたい受験生のニーズに応えた。

⑥学校推薦型選抜 B 日程ほか入試の機会を増やし、受験生の選択肢を広げた。

（３）課題

教育課程との整合性を確認しながら、わかりやすく訴求力のある広報媒体や内容で、入学者の受け入れ方針を高校側へさらに発信していく。

（４）特記事項

①アドミッション・ポリシーの見直しと、令和 7 年度入試に向けた入試制度に関する検討をおこなった。

②「駅なかオープンキャンパス」を、富山駅南北自由通路にて、5 月と 9 月に合わせて

3 回開催し、学科の PR 活動に取組んだ。

③高校からの進路ガイダンスの依頼や出張授業に積極的に取組み、進路ガイダンスに 5 校、出張授業に 5 校、ほかにも富山県社協からの受託で、8 校へ出張授業に出向いた。

④「夏休みオンラインセミナー」を 7 月から 8 月にかけ開催した（計 10 回）。

⑤入学者受入れに関する情報発信として、富山地方鉄道路面電車車内液晶モニター、駅貼りポスター（6 カ所）を 4 か月にわたり実施した。

（５）改善計画

①社会の変化と受験生のニーズを考慮しながら、絶えず見直しに努める。

②学科の広報活動ともなる進路ガイダンスや出張授業、さらには学校訪問の機会を有効に生かしながら､アドミッション･ポリシーへの理解促進と学科の魅力発信に努める。

13　学習成果の明確化

（１）現状

①２年次の 11 月に、日本介護福祉士養成施設協会による「学力評価試験」を受け、その時点での学修成果の明確化を行っている。

②Web シラバスで各科目の学修成果別評価基準（ルーブリック）と照らし合わせながら、履修学生による授業評価アンケートをもとに、学生の学習成果の把握に努めている。

③卒業認定に合わせ、各資格の取得人数（修了者数）の集計を出し、その学年における学習成果として明示している。

（２）課題

「学修成果別評価基準（ルーブリック）」を継続的に見直す。

（３）特記事項

今年度は新たな資格として「アクティビティ・ワーカー」「介護予防運動トレーナー」「公認初級パラスポーツ指導員」を取得する学生が出た。

（４）改善計画

「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の見直しを図り、授業改善につなげる。

14　学習成果の獲得状況の量的・質的データによる測定の仕組み

（１）現状

①質的データ

・介護実習において、実習報告レポートをもとに実習報告会を開催し、教員による成果の把握と学生間で学びの共有を図っている。また、実習記録の指導者からのコメントも学習成果の把握に活用している。

・介護実習において、各自で「経験録」を実習ごとに記入し、何を見学したか、説明を受けたか、体験したかの区分で記録を残せるようにしてある。これにより、実習

ごとでの詳細な経験内容をふり返られるようになっている。

②量的データ

・卒業前には学修行動・生活調査を行っているほか、1・2 年生の前後期において授業評価アンケートを実施し、学修成果の獲得状況等への学生の感想を把握している。

・介護福祉士資格を目指す学生は全員、生活支援技術の到達度の判定を卒業前に受けている。

・毎年 11 月下旬には日本介護福祉士養成施設協会による全国統一での学力評価テストを受け、その時点での学力面での到達度の把握をしている。

・業者による介護福祉士国家試験に向けた模擬テストを、2 年次に実施している。

・介護福祉士国家試験については全国の養成校の合格率、メディカルクラーク、ケアクラークをはじめその他の資格試験については、全国の合格率、本学科の前年度の合格率等と比較している。

・就職指導については就職率及び就職先の種類を毎年比較している。

（２）課題

・学修成果を確認するツールとなる授業評価アンケートの回答率 100%を目指す。

・資格取得には検定料と登録料が必要なため、資格取得を躊躇する学生がいる。

（３）特記事項

実習指導者と共に「介護実習の評価に関する検討会」をオンラインで 5 回開催し、実習の評価の仕方について継続的な議論と意見交換を行い、実習評価票を改良した。

（４）改善計画

資格検定の受験者を増やすとともに、合格率を引き上げるよう努める。

15　学習成果を可視化する指標

（１）免許・資格等取得状況

①介護福祉士国家試験　受験資格　25 人

②医療的ケア基本研修修了　25 人

③普通救命Ⅱ講習修了　25 人

④社会福祉主事任用資格修了　30 人

⑤介護職員初任者研修修了　28 人　※ほか、既修了者 2 名

⑥メディカルクラーク（医科）技能審査試験　3 人（合格率 30.0%）

⑦ケアクラーク（介護）技能認定試験　8 人（合格率 61.5%）

⑧日商 PC 検定 2 級（文書作成）　1 人（合格率 100%）

⑨日商 PC 検定 3 級（文書作成）　5 人（合格率 100%）

⑩アクティビティ・ワーカー　3 人（合格率 100%）

⑪公認初級パラスポーツ指導員　3 人（合格率 100%）

⑫介護予防運動トレーナー　　3 人（合格率 100%）
⑬介護サービス担当者のためのストーマケア講習会修了者　24 人
⑭四大への 3 年次編入学　2 人（通学課程　1 人、通信教育課程　1 人）

（３）課題
①資格取得に関する費用や試験の時期が、受験者数、合格率に影響を与える。
②軽い気持ちで受験する学生もおり、受験する以上は資格取得に向けた意識を高める。

（４）特記事項
①学修行動・生活調査における学習成果に関する自己評価では、入学時との比較で能力や知識はどう変化したかの問いに、17 項目中 9 項目で「大いに増した」「増した」合わせて 8 割超との結果であった。(「幅広い教養・一般常識」「専門分野の基礎的な知識」「専門分野での実践に必要な技術・技能」「プレゼンテーション力」ほか)
②同じく、在学しての満足度の問いでは、18 項目中「専門科目の授業」「資格・免許の取得」「担任の学生支援全般」「学科教職員からの学修支援全般」など 6 項目で、「とても満足」「満足」合わせて 8 割超に達している。

（５）改善計画
①希望が少ない資格について、その意義を再検討する。
②資格を希望する者は全員合格するよう、試験日までのモチベーションを高める工夫をする。

16　卒業後評価への取組み

（１）現状
①５月の連休後から 7 月上旬にかけて県内の就職先を訪問し、本人や上司との面談結果を学科で共有するほか、「大学への要望」事項を学生指導に反映させている。
②上記の訪問時の採用先へのアンケートでは「前に踏み出す力」と「考え抜く力」への期待が高いことから、教養演習や総合的研究など学生が主体的に取組む授業のいっそうの充実を図っていく。
③「がんばる介護職員表彰（通称：がんばりすと)」（富山県福祉人材確保対策会議会長により介護事業所の優秀な中堅職員を表彰する制度）を毎年確認し、専門職に就いた卒業生の評価の一つとしている。今年度も学科卒業生 1 人が選ばれ、受賞人数は 34 人を数える。
④前年度の卒業生を対象に、オンラインを用いてのオンライン同窓会を毎月 1 回開催し、定着支援と現状把握に努めた。

（２）課題
多様な卒業生が新しい環境に適応できるまでの定着支援。

（３）特記事項

実習巡回で施設を訪問した際にも、過年度の卒業生の様子を伺うようにしている。

（４）改善計画

多様な卒業生に対し、必要があれば何らかの支援ができるような、就職先や進学先との連携のあり方を検討していく。

17　教育資源の有効活用

（１）現状

福祉棟 D 館 3 階ラウンジに 3 台のデスクトップ PC の設置と、学内貸出用の 7 台のノート PC（カメラなし）ならびに 3 台のカメラ付きノート PC を学科で準備。D 館 1 ～3 階および C 館 2～3 階まで 1Gbps のイーサネット LAN を設置し、一部の実習室を除き Wi-Fi 環境も整備されている。また、昨年度にタブレット 10 台とインカム 10 台を整備し、情報システムが整備された福祉施設の環境に準じた実習を展開できるようになった。

（２）課題

令和 5 年度入学生からノート PC を必携としたが、福祉ビジネス・情報系の科目だけではなく、その他の科目においてもノート PC を活用した授業を展開し、デジタル化を引き続き進めることが課題である。

（３）特記事項

昨年度に引き続き、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の導入に向かって、デジタル化へ対応する教育課程の編成に取り組んだ。

（４）改善計画

学生の学習用 PC の利用を促進する。日常の学習や遠隔授業のみならず、実習やインターンシップの記録にも活用し、進化・深化していく介護に対応する人材育成に取り組んでいく。

インカム、タブレット、介護ロボットの活用をはじめとする ICT や AI を視野に入れた学習を進める。

18　学習支援

（１）現状

①入学前セミナー

12 月までの入試における合格者を対象に実施し、事前課題を設けて提出してもらった。当日は、課題の振り返りとレポートの書き方についてのミニ講義、学生による学

生生活の準備に関する懇談も行った。

②ゼミ担任制度

1年前期は教養演習ゼミ､1年後期から総合的研究のゼミによる担任制度で支援した。

③プレースメントテストの実施

入学時点での学生の基礎学力を把握する手立てとして、1 年生全員に基礎的な国語力を見る問題でのプレースメントテストを実施し、その後の学習支援に役立てている。

④資格取得対策

介護福祉士国家試験の受験対策として、科目ごとに担当教員が補習授業をするほか、特別授業も実施して取り組んだ。外部模試も実施した。

⑤保護者懇談会

家庭との連携を取るために、大学祭に合わせて保護者懇談会を開催した。

⑥個別支援

学習上の課題を持つ学生には、クラス担任、ゼミ担任、分野別教員により多面的な支援を行うほか、学科の会議で情報共有するなどの体制をとっている。また、必要に応じて保護者とも連携しながら進めている。

⑦経済的な支援

経済的な課題を抱える学生には、富山県社会福祉協議会による介護福祉士等修学資金（介護福祉士国家試験受験資格取得希望者が対象）をはじめとする修学資金等を紹介している。受験生にもオープンキャンパスや入学前セミナーでも案内している。保護者には入学後のオリエンテーションで説明し、利用を促している。

（３）課題

①介護福祉士を目指す学生は、介護福祉士養成のための指定科目の学習に加え、10 週間の学外実習や国家試験対策もあり、のびやかな学生生活を過ごしてもらうための教育課程の工夫が求められる。

②保護者懇談会への参加者が年々減少し、必要な個別相談が行いにくい状況にある。

（４）特記事項

発達障害のある学生からの相談に対応し､障害に関するクラスの理解促進に取り組み、当該学生が安心して学習できる環境づくりに努めたほか、合理的配慮に学科の全教職員が取り組んだ。

（５）改善計画

①障害や疾病で課題を抱える学生が学習しやすい環境を整備していく。

②福祉ビジネス分野のみを履修する学生の場合、卒業単位の取得がぎりぎりになることもあり、履修登録のみでなく、随時、履修状況を確認するような取り組みを進める。

19　生活支援

（１）現状

①学生の生活支援において担任とゼミ担当教員が連携し、学科会議等で教員間での情報共有をおこなっている。
②実習では「健康チェックシート」や「介護実習コロナ感染予防対策マニュアル」を活用し、感染症対策を意識した生活を指導している。
③メンタルヘルスにおいては学生個々に合った対応を心がけ、学生の同意があれば学科教員間で情報を共有しながら支援をしている。心身に不調を生じている学生は医師の指示のもと、オンライン聴講にも対応している。
④学生生活に関し学生から意見や要望があった際はその都度、学科会議で検討し対応した。卒業前には 2 年生を対象に「教育課程懇談会」を開催し、意見や要望を聴取した。

（２）課題

令和 5 年度は、新型コロナウイル感染症が 5 類に変更となり、通常の対面形式の授業にもどったが、未だ終息に至らず、登校時には学生の心身の変化を見逃さないことが必要である。

（３）特記事項

合理的配慮が必要な学生に対しては家庭訪問等、個別対応を実施した。気になる学生に対しては、その都度、家庭への連絡を行って情報共有を図り、今後の対応について話し合った。

（４）改善計画

特別な配慮を要する学生には日頃から気にかけて、いつでも相談ができる環境を引き続き学科全体で整える。

20　進路支援

（１）現状

①1 年前期に「キャリアデザイン演習」を開講することで、福祉ビジネス系志望の学生の一般企業への早期就活に対応させている。
②福祉職場説明会（「福祉のお仕事フェア」）には学科教員が引率し、事業所との橋渡し等を行った。一人最低 3 か所を目途にブースを回り、比較検討しながら志望先を選ぶよう指導している。事前指導では、求人票の見方や説明会の活用の仕方を説明した。
③2 年生の進路動向を就職支援委員とゼミ担任とで把握し、学科会議での情報共有に努めるとともに、就職支援センターとの連携を密にしている。
④学生の特性に応じて学科長と就職支援委員とで面接練習を複数回行い、落ち着いて採用試験に臨めるよう支援している。
⑤履歴書添削は、本人の主体性を引き出しながら、個別指導を行っている。
⑥一般就職においては就職支援センターによる個別での面接指導を受けることを勧め、学生の性格や能力を踏まえた指導を心がけた。

⑦就職筆記試験対策講座において、適性検査の対策コースの導入を前年度から就職支援センターに提案し、今年度から導入されることになった。
⑧全員が介護職員初任者研修を修了できるカリキュラムにすることで、福祉ビジネス分野に進む学生においても就職先で介護の知識を生かせられるようにしている。
⑨四年制大学への編入学支援では、編入学後に履修する科目の一部を短大在学中に履修できる「科目等履修生」制度を活用する支援を行っている。
⑩委託訓練生にはキャリアコンサルタントによる個別面談を取入れ、採用内定まで学生の不安を軽減させながら主体的に取組めるよう支援をしている。
⑪進路指導特別講座「先輩と語る会」を後期のガイダンスに合わせて開催し、1・2年生全員が昨年度の先輩から、進路別の様子をうかがう機会となっている。
⑫進路指導特別講座「2年生から1年生へ」を、おおむね2年生全員の進路が決まった2月に開催し、2年生一人ひとりから就活の実際を直接聴ける機会にしている。

（3）課題
①進路がなかなか確定しない学生の主体性の引き出し方
②県外の企業への就職希望者に対する指導助言

（4）特記事項
県外の四大への編入学希望者や就職希望者が昨年度から出始めている。

（5）改善計画
編入学希望者の受験対策プログラムを検討していく。

21　健康支援

（1）現状
①能登半島地震直後から学生の安否確認に努め、心のケアを行った。特に、輪島市、氷見市の学生については本人のみならず家族の被災状況や健康状態の把握に努めた。
②修学上の健康課題を抱える学生には、学生部や教務部とも連携し、組織的な支援を行っている。
③相談内容によっては一律的にクラス担任が相談窓口となるのではなく、より適切な教員が対応するよう配慮している。
④気になる学生の出身高校と、入学前に個別対応のための情報共有を図った。
⑤必要に応じ、主治医、保護者とも面談をし、情報の共有や訴えの確認、ならびに本人への継続的な連絡も状況に合わせて行っている。
⑥体調不良で配慮を要する学生に対し、医師の指示のもと単位取得ができる授業及び実習の調整を図った。
（2）課題
①毎年入学してくる課題を抱えた学生への支援体制の構築

②プライバシー保護に配慮し学内の関係部署との情報共有や対応における共通理解。

（３）特記事項

配慮が必要な学生については、家庭とも連携し、学生本位の支援を心がけた。

（４）改善計画

①課題を抱える学生に関し、健康支援センターとの協調の徹底。

②学生からの相談は学生の同意を得たうえで､学科内で支障のない範囲で共有していく。

※22～25 の点検項目は他部署で記載のため省略

26　教育研究活動

（１）現状

①専任教員は、各規程を遵守しながら、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育活動をおこなうとともに、関連する諸学会に所属して研究活動を実施している。

②限られた時間の中で、学内紀要への投稿や学会発表に努めた。

・「富山短期大学紀要」に研究ノート 2 編が掲載された。

・科研費基盤研究（C）（一般）「ポスト・コロナ社会に向けた超学域的 e ツーリズム研究の構築」共同研究（北海道大学、慶応義塾大学、富山大学、南山大学、富山短期大学）を行った。

・厚生労働省令和 5 年度老人保健健康増進等事業「外国人介護人材キャリア育成手法の現場実践による効果性に関する調査研究事業」（申請者：一般社団法人グローバルカイゴ検定協会）との共同研究を行った。

・厚生労働省「令和 5 年度老人保健健康増進等事業」QMS 介入推進委員会事例報告会に参加した。

・日本レセプト学会学会誌へ査読付き論文（1 本）を掲載した。

・一般社団法人グローバルカイゴ検定協会発刊「外国人介護人材といっしょにわかりあう学び合うプログラム」への分担執筆を行った。

・令和 5 年度日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会の分学科会議で、話題提供者として「介護ロボット ICT に関する教育プログラムの取り組み」についてオンラインで報告した。

・令和 5 年度日本介護福祉士養成施設協会東海北陸ブロック研修でのプレゼンテーションで､「発達障害や精神疾患などを生きづらさを感じている学生への取組み」について報告と当事者の学生へのインタビューを行った。

・G7 富山・金沢教育大臣会合関連事業「富山県高等教育シンポジウム」でパネリストとして参加した。

③介護福祉士養成課程の時間数が増加し、研究活動の時間の確保が困難になってきてい

ることから、教員は授業や学生指導など教育活動に関連した領域で研究活動を行うように努めている。

④FD 研修には積極的に参加し、学びを深めている。

⑤専任教員は学生の学修成果の獲得に向け教務入試課、学生支援課、就職支援センター、そして他学科と連携をしている。

⑥3 年計画で富山県からの委託事業「地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業」に取組、「地域住民に対する介護の理解促進事業」と「介護に関するに入門的研修の実施等からマッチングまでの一体的支援研究事業」の評価を行い、「人と事業所がつながる」「地域での勉強会ハンドブック」「地域を基盤とした介護に関する入門的研修からマッチングまでの実施マニュアル」を作成した。

⑦1 年前期の「教養演習」および 1 年後期からの「総合的研究」において、今年度もフィールドワークの手法を導入し、調査研究の対象を大学が立地する呉羽地域に設定して取り組んだ。

⑧総合的研究の発表会では広く呉羽地域の各種団体や組織、福祉施設等、フィールドワークでお世話になった方々からの参加があった。併せて、たくさんの質問や助言をいただくことができた。

⑨インドネシア看護大学との交流

・10 月にインドネシアの看護大学 3 校（ブディフルチマヒ看護大学、ブンクル健康大学、YPIB マジャレンカ看護大学）の学長はじめ教員等の視察を受け入れた。

・「生活支援技術」（1 月）、「卒業研究発表会」（2 月）の中で学生とインターンシップ学生（8 人）との交流を行った。

・令和 6 年 1 月に教員 1 人が、ブディフルチマヒ看護大学、YPIB マジャレンカ看護(財)日本技能実習生支援センター日本語学校を視察し交流を行った。

（２）課題

教育・研究の時間の確保

（３）特記事項

①富山県老人福祉施設協議会の研究レポート選考委員

県老施協による研究レポートの選考委員会で座長を 11 年にわたり務めている。

②令和 5 年度日本介護福祉士養成施設協会東海北陸ブロック研修で教員 1 名が実行委員を努めた。

③令和 6 年度日本介護福祉教育学会の実行委員として教員 2 名が準備を担当している。

（４）改善計画

学生の視点から教育活動全体を見直すとともに、研究活動の時間を確保し、また、学科会議で専任教員同士が研究について情報交換する機会を設けていく。

令和5年度富山短期大学卒業生【令和5年3月卒】の事業所･企業等就職先訪問　報告書

― 集計 ―

健康福祉学科

調査卒業生数　　21名

評価項目	A （良い）	B （やや良い）	C （普通）	D （やや悪い）	E （悪い）
1. 礼儀・基本的マナー	17名（81%）	3名（14%）	0名（0%）	1名（5%）	0名（0%）
2．チームワーク［チームで働く力］	14名（67%）	6名（28%）	0名（0%）	1名（5%）	0名（0%）
3．アクション［前に踏み出す力］	10名（48%）	4名（19%）	7名（33%）	0名（0%）	0名（0%）
4．シンキング［考え抜く力］	7名（35%）	3名（15%）	10名（50%）	0名（0%）	0名（0%）

5．その他、応対者のコメント

（1）新人研修について

①新人はマンツーマンで研修をし、目・気・心くばりができる介護職員を目指している。

②礼儀やコミュニケーションはその人の持っているもの。短大で身に付けるものではないので。

③入社後に会社の中で対応させて頂きます。今回の方はまじめで十分です。

（2）短大への要望

・メンタルトレーニング、現場で役立つ知識等

（3）採用学生へ期待するもの

①疑問に感じ、考え、解決することを身につけてほしい。

②協調性、意欲→今回の方は充分である。

③挨拶、コミュニケーション能力、規則正しい生活（健康管理）

④人としての基本姿勢が大切だと思っている。自分を大切にしないと相手も大切にできない。

⑤自分の能力を発揮し成果を出すことの大切さへの理解

（4）採用学生の様子や感想

①笑顔もよく、非常に前向きで、介護技術もしっかり身につけている。
②とても意欲があり、嫌と言わない。社会人のルールもわりとスムーズに身につけられた。
③仕事が丁寧で、覚えるのが早い。まわりとのコミュニケーションもよい。気配りも早く、先に動ける。
④積極的に質問し、メモを取る姿勢は評価できるので、あとはしっかり復唱してほしい。
⑤新卒の入社は初めてで、長期的な研修を組んでいる。同期入社がいないので、少し心配。
⑥前向きで、利用者には目線を合わせて接している。自分の思いや意見を持っている。
⑦とてもよく頑張っている。たいへん優秀です。
⑧理解力は十分である。。
⑨早くに利用者の名前も覚え、まじめさと優しさを感じた。穏やかに笑顔で対応している。
⑩業務に対して積極的で、物覚えが早い。協調性があり、コミュニケーション能力も高い。
⑪たいへん優秀な人材で、感謝している。
⑫1対１での利用者とのコミュニケーションがたいへん上手。自分からしたいことを話してくれる。
⑬業務態度は良好。明るい挨拶を実践しており、高く評価している。
⑭積極的に動いて、フットワークがいい。わからないことはしっかり質問できるようになってほしい。

大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと　等)

「表情が豊かなコミュニケーション」「敬語」「挨拶」そして「接遇の基本」

来年の求人について

採用希望多い。

卒業生からの声　※あるいは該当年度以前の卒業生からのコメントがある場合も、こちらにご記入ください。

①優しい人ばかり。新人研修も3回あった。丁寧に教えてもらい、満足している。
②職場にも慣れ、非常に明るくなっており、自信も取り戻した様子。仕事が楽しくてたまらない。
③職員がとても優しくて「大丈夫？」と気遣いしてくださる。
④自分と年齢があまり変わらない職員がほとんどで、仲良くしてくれる。ストレスなく仕事ができる。
⑤仕事は慣れてきたが疲れが出るため、昼休憩に休んでいる。職場環境はよい。
⑥会社に期待されていることも感じている。疲れているので休日はしっかり休むようにしている。
⑦物覚えがあまりよくないので、一人前になれるか不安。職場の人間関係は良好。
⑧楽しく仕事している。車の運転にも慣れた。月5回の勉強会は大変だがおもしろい。
⑨実習のときからお世話になっているが、職員のみなさんが優しく丁寧に教えてくださる。
⑩3月からアルバイトで来ており、すっかりなじんで楽しくやってます。
⑪仕事の指示から取り掛かりまで時間がかかり、改善したいと思っている。
⑫職員の方々はみな優しく、良い雰囲気の中で仕事をしている。。
⑬新しいことを覚えるのはたいへんだが、周囲が優しく指導してくれる。
⑭家から近いので、通勤が助かっています。困っていることは、特にはありません。